

本時のねらい

「平行」の観点で四角形を分類し、平行四辺形と台形の特徴を知る。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

ジャムボードを使用し、色々な四角形を分けやすくするとともに、特徴の比較をしやすくする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・拡大用テレビ
- ・ジャムボード

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○めあての確認をする。 「色々な四角形を仲間分けしよう」	・拡大用テレビに仲間分けする図形を示し、学習の見通しを持たせる。
展開 (30分)	○2人組で四角形の仲間分けをする。 ・グループを分ける。 ・どのように分けたのかまとめる。 ・他のペアがどのように分けたのかを比較する。 ○全体で交流する。 ○平行の数にしばって改めて仲間分けをする。	・教科書に載っている図形をジャムボードにカードとして貼り付けておき、動かせるようにし、グループ分けをしやすくする。 ・ペン機能や付箋機能を使って、他の人が見たときにどのように分けたのかを伝えやすくする。 ・早く仲間分けができたペアも他の人がどのように分けているのかを見ることができるので、自然と比較して考えることができる。 ・拡大用テレビだけではなく、自分のタブレットでも他のグループが分けたものを見られるので、友だちの説明がより理解しやすくなる。 ・もう一度教科書を使って仲間分けをすることで、ジャムボードで分けた自分たちの考えの比較ができる。
まとめ (10分)	○学習のまとめをする。 ○練習問題に取り組む。	・平行が見つにくい図形は拡大用テレビに映して説明することで、視覚的に伝えやすくする。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：ペアで分度器などを用いながら四角形を仲間分けしている場面



写真2：他のペアの分け方を見て違いを比較している場面



写真3：それぞれのペアがどのように分けたかを全体交流している場面

児童生徒の反応や変容

- ・ペアで行くと、仲間分けする際に書く担当や分ける担当など分担して、ジャムボードを円滑に操作することができていた。
- ・早く終わった児童も他のグループの作業を画面上で見られるので、どのようにグループ分けしたのかを一緒に考える姿がみられた。
- ・トライアンドエラーが可能なので、これまで算数に苦手意識を持っている児童も、色々な分け方を試してみようという意欲的な様子であった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ジャムボードで図形の仲間分けをすることで、児童全員が自分の手で操作しながら思考することができたので、有効だった。
- ・図形を拡大して調べたり、色分けして自分の意見を表現したりと児童が主体的に工夫する姿が見られた。